

NEWS

The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

No.

30

October, 2018

「九州大学の鉱物鉱石」展示が始まります

箱崎から伊都へのメインキャンパス移転が9月に完了し、箱崎キャンパス内各所で保管していた標本たちも、旧工学部本館へと引っ越しました。

様々な分野の標本が旧工学部本館に集約され、建物が丸ごと博物館へと変身しました。常設展示では、「ありがとう箱崎キャンパス」シリーズの締めくくりとして、本学創設時以来の資料の一つである、鉱物鉱石標本に焦点をあてた展示を行います。

総合研究博物館第8代館長 緒方 一夫



『雲根志』 木内石亭による江戸時代の鉱物図鑑



「ありがとう箱崎キャンパス」シリーズ展示

防塁再発見

— 慧眼の士・中山平次郎先生の足跡 —



岩永 省三 一次資料研究系・教授

期間●2018年5月12日(土)～7月27日(金) / 場所●総合研究博物館・常設展示室 / 主催●九州大学総合研究博物館・九州大学埋蔵文化財調査室

「元寇防塁」は、博多湾沿岸各地に遺跡が残っていますが、その考古学的研究を始めたのが九州大学医学部病理学教室初代教授の中山平次郎先生でした。中山先生は大正初期に箱崎地区でも綿密な踏査を行い記録を残しました。しかし箱崎地区の防塁は、市街地の開発や九大キャンパスの建設に伴い、その東端の地蔵松原以外では消滅したと考えられてきました。

ところが埋蔵文化財調査室が2016(平成28)年に始めた箱崎地区内の発掘調査で、石積遺構が続々と発見され、それが、中山先生が目にした防塁そのものであることが明らかとなりました。本展示では大正初期の中山先生の研究成果と最新の発掘調査成果を対比し、中山先生の仮説が発掘調査で検証されたことを紹介するとともに、その後の分析で明らかになった新事実を代表的出土品とともに紹介しました。

中山先生は、1871(明治4)年生まれ。東京帝国大学医学科を卒業。1906(明治39)年に福岡医科大学(現在の九州大学医学部)の初代病理学教授となり、1931(昭和6)年まで病理学を担当。少年時代から考古学に興味を持ち、福岡医科大学着任の6年後、1912(大正元)年(41歳)から考古学・古代史研究を本格的に始め、大正から昭和初期にかけて九州における考古学研究をリードしました。発掘は行なわず、徹底した現地踏査と表面採集によって資料を収集し、遺物と遺跡の関係を明らかにする方法をとりました。

今回スポットを当てる元寇防塁研究以外の主要な業績として、先史原始両時代中間期間の提唱、弥生時代の石器製造所跡の研究、「漢委奴国王」金印の研究、鴻臚館跡の発見、古代・中世の古瓦の研究、博多の都市史の研究などがあります。

40歳を超えて考古学を開始した中山先生が最初に挙げた研究成果が元寇防塁研究でした。

展示では以下の諸成果を紹介しました。

(1)中山先生の踏査結果の記述が箱崎地区内で元寇防塁の位置を探索する有力な手掛かりとなり、中山先生の仮説が発掘調査で検証されてきました。(2)防塁の海側の綿密な調査によって、元寇時の海岸線の位置が初めて明らかとなりました。元寇時の海岸線は、海岸埋め立て前の戦前の地図あるいは現代の地形によって推定されてきましたが、防塁前面の発掘調査をしなければ正確には判らないことが明らかとなりました。元寇当時の海浜景観、戦法・兵法の復元には、今回のような、当時の地形・海岸線に考慮した調査が必要です。(3)元寇防塁の石材の採取地が肉眼観察でなく、岩石学的研究によって名島層あるいは河川流域の転石と絞り込まれてきました。

主要展示物は、新出土防塁石材、礎石、防塁内側の大溝出土品、中山先生が採取した各地の防塁石材です。



- ① 中央図書館南地点で発見された防塁は、まさしく1912(大正元)年に中山平次郎が、大学内で最も残りが良い場所として注目した地点であった
- ② 工学部旧2号館地点から出土した礎石2点も展示
- ③ 中山平次郎先生(1871～1956)
九大医学部・初代病理学教授で考古学者。40歳を超えて考古学研究を開始。大正から昭和初期の九州における考古学研究をリード
- ④ 会場の様子

「ありがとう箱崎キャンパス」シリーズ展示

戦前の福岡における 博物研究の興隆と 九州大学

三島 美佐子 開示研究系・准教授

期間●2018年3月22日(木)～5月6日(日)

場所●総合研究博物館常設展示室

これまでほとんど語られることのなかった「福岡における博物学」を取り上げました。その背景や流れについて、担当者独自の資料



調査の成果として、関連資料や標本とともに紹介しました。

人物としては「九州博物研究会」を興した原田万吉、九州帝大設置後「福岡博物学会」で分野横断的な交流を目指した医学部教授の石原誠、それを引き継いだ農学部教授の江崎梯三などにフォーカスしつつ、当館所蔵資料としては、福岡医科大学の初代学長・大森治豊と九州帝国大学初代総長・山川健次郎の専門研究にちなんでX線管を、また、農学部移転の過程で出て来た1911年採集の樹木標本や、江崎梯三採集の南洋群島産魚類標本、医学部建物の建て替え時に見つかった菌類採集会の集合写真などを展示しました。

福岡における博物学の興隆と変遷は、近代史の一つとしてさらなる調査研究の余地があるところです。将来的に、さらに踏み込んだ内容を扱い、当館の豊富な実物資料を生かして展示することが期待されます。



「ありがとう箱崎キャンパス」シリーズ展示

伊都につながる百年

— 学術遺産と学者たち —

岩永 省三 一次資料研究系・教授

期 間●2018年9月25日(火)～2019年1月18日(金)

場 所●伊都キャンパス椎木講堂 1階 ギャラリー

主担当●岩永 省三



九州大学が進めてきた箱崎から伊都へのキャンパス移転は、本年9月に完了しました。それに伴い、箱崎キャンパスは長い歴史を閉じますが、病院地区キャンパスとともに、そこでなされた教育・研究の蓄積は、本学の学術遺産として忘れてはならないものです。

総合研究博物館と大学文書館は、伊都への移転完了を記念し、箱崎・病院地区キャンパスで本学創設期に展開された教育・研究活動と学術遺産を、その形成に関わった学者たちの活動とともに振り返りました。

九州大学の百年を超える歴史の中で蓄積された学術標本や大学史史料を、様々なエピソードとともに紹介・展示し、それらが新しい研究を生み出す可能性や、これからの百年に向けた大学における資料収集の可能性も考えました。

「ありがとう箱崎キャンパス—学術遺産と学者たち—」

伊都につながる百年





密やかな部屋

— きらめく昆虫標本 —

期間 ● 2018年1月20日(土)～3月11日(日)
 場所 ● 三菱地所アルティウム
 主催 ● 三菱地所・三菱地所アルティウム・西日本新聞社
 共催 ● 九州大学総合研究博物館
 監修 ● 丸山 宗利

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

今年の1月、イムズ(福岡市中央区天神)の8階のアートギャラリー「アルティウム」で、表題の昆虫展が行われた。当館収蔵の昆虫標本を中心に本学の古い木製什器を利用した展示である。アートギャラリーという会場の性質もあり、一般的な昆虫展示とは異なる切り口での展示を目指した。展示の担当はアルティウムの鈴田ふくみさん、デザイナーは大村政之さんで、その2人と私で展示内容や会場構成、デザイン等を考えた。

会場は大きく見てU字型で、まず入ると、世界各地の大型美麗種の標本箱を配列した標本回廊がある。カラスアゲハ、モルフォチョウ、オオツノハナムグリなど、分類群ごとに箱をまとめ、菱形や正方形に配置。背景はこれまでの昆虫展ではおそろくなかったであろう臙脂色を採用した。これが意外に標本の美しさを引き立てた。また、臙脂色の背景に標本写真を配置したものが本展示のポスターやメインビジュアルとなった。

それから突き当たりの小部屋には木製の大机を配置し、その上にツノゼミの標本を置くとともに、その周囲の壁にツノゼミを中心とした博物画を飾った。微小な珍奇種を用い、入口の大型美麗種との大きな差異で昆虫の多様性を実感していただくという狙いである。

そこを抜けて折り返すと、古い木製什器類と美麗甲虫類を展示した部屋がある。標本には「保存のために生物の時間を止めたもの」という意味があり、それを古い家具の存在に重ねる意味を持たせた。

壁には金平亮三(九州帝国大学時代の植物学者)による植物画を展示し、さらに独特の雰囲気を作り出した。

最後には小部屋があり、私が撮影した昆虫の体表面写真の大型パネルを標本とともに展示した。小さな昆虫でも、体表面を拡大すると、巨大な風景画のような迫力がある。アルティウムは、絵画や写真、立体等を展示することが多いため、その点を考慮して行った。

展示は好評で、3ヶ月で1万人以上の方にご来場いただいた。多くの昆虫が苦手な方にも、昆虫の美しさ、さらに標本や古い家具の持つ懐かしい雰囲気を純粋に楽しんでいただけたようだ。

昆虫展示といえば児童向けに作られることが多いが、今回は大人の来館者を想定した。さらに昆虫展示に関する一般的な印象をできるだけ排除し、鈴田さんや大村さんの感性の鋭さ、さらにケイ・ネットワーク(展示業者)の松原憲治さんの助言もあいまって、昆虫展としては非常に独自性の高い展示となった。当館としても非常に良い経験となり、今後の展示に生かせればと思っている。

- ① 展示のメインビジュアル
- ② 標本回廊
- ③ 古い木製什器と植物画を用いた展示

昆虫に ズームイン!!

顕微鏡レンズで見る体表面構造

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

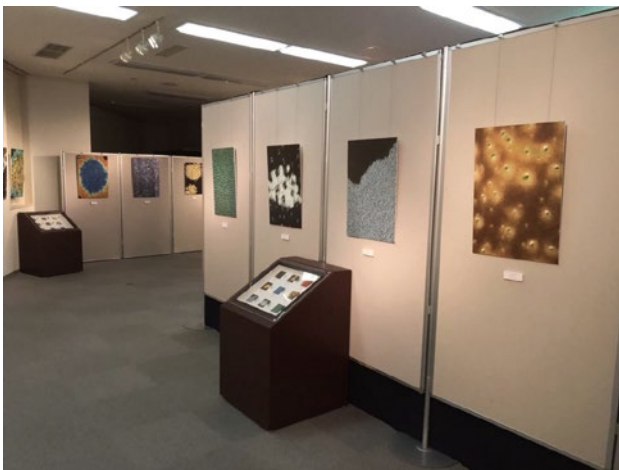
期間●2018年7月10日(火)～9月2日(日)

場所●志摩歴史資料館

主催●糸島市・志摩歴史資料館・九州大学総合研究博物館

監修●丸山 宗利

昆虫の体表面は、一見ツルっとしたものであっても、実は拡大すると非常に複雑な構造を持っているものである。種によって、山岳地帯の航空写真のように見えたり、蛇の鱗のように見えたり、高級絨毯のように見えたり、実に多様で、ときに息を呑むほどに美しいものもある。ここ8年ほど毎年、志摩歴史資料館での夏の展示を担当しているが、今回はその昆虫の体表面構造を顕微鏡レンズで高解像度で撮影し、大型パネル化して展示した。一部はアルティウムでの展示で使用したものだが、大部分を今回の展示のために撮影し、標本とともに展示を行った。今回は死んだ昆虫(標本)を用いたが、最近では生きた昆虫でも撮影を進めており、いつか公開できればと思っている。



シンポジウム連動特別企画展示

FURNITURE FOR FUTURE

三島 美佐子 開示研究系・准教授

期間●2018年5月19日(土)～5月27日(日)(期間中土日も開催)

場所●旧工学部本館3階 特別企画展示会場



トヨタ財団助成を受けた研究プロジェクト「活用文化財としての歴史的木製什器の在野保存—新たな文化財概念の確立とその保存活用方策に関する実践研究」のキックオフシンポジウム「Furniture for Future」に連動した企画展示でした。旧工学部本館3階中央部にある3室で実施しました。それぞれ室ごとに、「救う」「使う」「楽しむ」をテーマとし、この約10年、当館が取り組んできた歴史的木製什器のレスキューと保存・活用について紹介するとともに、古いモノに対するありかたについて問題提起をするものでした。

第一室の目玉は救済什器の選りすぐり品(写真)で、医学部の建物建て替えて廃棄扱いとなり博物館が引き取った「明治40年購入」の教授両袖机をはじめとした13点。第2室では、かつての第一分館倉庫(旧工学部知能機械実習工場)のイベントでしつらえていたカフェコーナーの再現、第3室では、大川家具の協力でリペアされた救済什器や、借用した「ネコ家具」がみどころでした。初日から「花屋マウンテン」の繁森誠氏によるフラワーアレンジも加わり、華やかな雰囲気での開催となりました。のべ約300名のご来場があり、また、来場された方々とお話する中で様々なご意見やアイデアを頂戴することが出来ました。

COLUMN①

国立科学博物館の特別展「昆虫」の監修に

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

今年の夏、国立科学博物館で初めての昆虫展、その名も「昆虫」が開催された。昔ポストクとして国立科学博物館でお世話になっていた関係で、数年前から協力の話があったが、今年に入って主催者から企画提供の依頼があり、最終的

に監修者の一人に加わることとなった。初めての昆虫展示ということもあり、とにかく昆虫に関するあらゆることを展示したもりだくさんな内容で、私は美しい昆虫、変わった昆虫、ゴキブリ、アリ共生昆虫(私の専門)、マダガスカル調査など企画を

担当し、展示品の準備や図録の執筆を行った。これらには過去に当館で行った展示の焼き直しも多く、これまでの経験がおおいに役立った。さすがに国立科学博物館。約3ヶ月の開催期間で、44万人の来場者数を達成した。開催規模や宣伝費用



等で、当館が太刀打する術はないが、今後の展示に生かせそうな経験も多かった。



九州大学 クラウドファンディング

九州大学は本年度から Readyfor と提携したクラウドファンディングを開始しました。その初回を飾った当館のプロジェクトを紹介します。



“オール・アンモナイト” プロジェクト

前田 晴良 分析技術開発系・教授



九州大学総合研究博物館は、白亜紀アンモナイトの国内最大のコレクションを擁する国際的な研究拠点ですが、白亜紀以外の化石コレクションは残念ながら貧弱です。今回のプロ

ジェクトは、将来的に「九大に来ればアンモナイトの全体像がわかる!」と言われるように、さまざまな時代・地域のアンモナイト化石を収集し、今後の研究・教育に役立てることを目的としています。

アンモナイトは示準化石としてだけでなく、理論形態や過去の地球温暖期の指標としても注目されています。しかし化石の実物を手に取って観察できる場所は国内では稀です。研究でも教育でも一番重要なのは実物同士の比較、すなわち「virtual」より「actual」です。標本の一部は、来館者が直接手で触れる状態で公開展示する計画で、5月末に目標金額100万円でスタートしました。幸いにも予想を上回るご支援をいただき、最終的には当初目標の240%を超える243万円の募金を集め、8月10日に無事に成立しました。現在、海外からの標本収集の手続を進めると同時に、支援者に対するサインス・ツアーや実物化石プレゼントの準備を進めています。乞うご期待。

歴史的な木製学校家具を救え! 九大什器保全活用プロジェクト

三島 美佐子 開示研究系・准教授



本学のキャンパス移転に伴い、什器更新のために多数の木製家具が廃棄されることになり、最終移転でも大規模なレスキューを実施することとしました。しかしながらこのレスキューは「移転

で生じた廃棄物の再収集」にあたるため、移転経費から運搬費を支出出来ません。そこで、この運搬費をご支援いただくことと、このような活動を通して廃棄物や古いモノの扱いに対する問題提起を目的として、クラウドファンディングを実施することにしました。結果として、255人のみなさまから当初目標の2倍を超える413万4千円のご支援をいただき、期日の7月31日までに無事成立することができました。改めて、深く御礼申し上げます。同時に、複数のメディアにも取り上げていただき、大きな反響をいただきました。このような取り組みへの関心の高さに、驚くとともに心強く感じました。8月過ぎから文系地区と農学部からの搬出を手運びですすめ、9月末日現在、ご支援いただいた経費での運搬を2回、実施しました。10月半ばごろまでに、さらに3回の運搬を予定しています。無事救済した木製家具については、詳細な記録と調査を実施し、持続的な保存と活用の新たな試みである「在野保存」の仕組みを整備した後、多くの方に触れていただける公共機関や店舗を中心に、いずれは個人も対象として、長期的貸し出しをしていきたいと考えています。

▶総合研究博物館では、博物館活動充実基金として引き続き皆様からのご寄付を受け付けています。

手続きの流れ

1. 当館 HP に掲載の寄附申込書（博物館活動充実基金用）にご記入ください。
2. 事前に博物館事務室までご連絡頂ければ、申込書記入内容の確認をいたします。
3. 寄附申込書原本を、博物館事務室まで郵送願います。
4. 入金依頼書をお送りいたしますので、同封の振込用紙により納入してください。
5. 入金確認後に、御礼状と「寄付金領収書」をお送りさせていただきます。寄付金領収書は税法上の優遇措置に必要ですので、確定申告まで保管して下さい。

※当基金への寄付金は、所得税、法人税、相続税、住民税（自治体により異なります）の優遇措置をうけることができます。

詳細は当館ホームページもご参照ください。

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>

九大博 充実基金

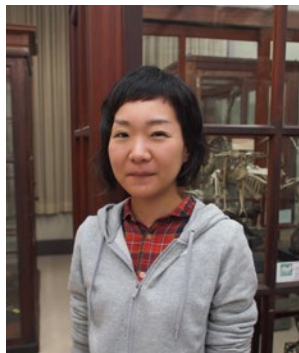


お問い合わせ先：総合研究博物館事務室 / 電話 ●092-642-4252 / メール ●office@museum.kyushu-u.ac.jp

新任教員による着任のご挨拶と研究紹介

着任のご挨拶

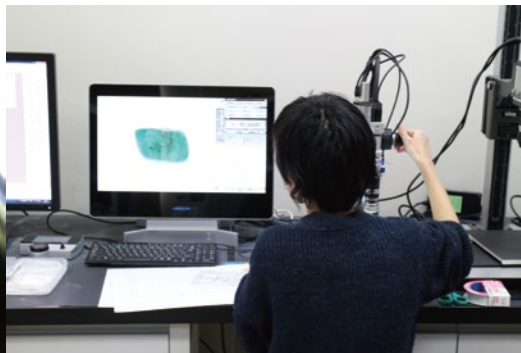
谷澤 亜里 開示研究系・助教



▲谷澤 亜里 助教



▲総合研究博物館所蔵のビーズ (玉泉館資料)



▲デジタル顕微鏡によるビーズの観察 福岡市埋蔵文化財センターにて

2018年5月から開示研究系の助教(支援教員)に着任しました、谷澤亜里です。専門は考古学です。考古学は、「モノ」を手がかりに人類の過去を明らかにしようとする学問ですが、私は特に日本の弥生時代から古墳時代の玉類(ビーズ)を研究対象としています。

弥生時代から古墳時代のお墓からは、綺麗な石やガラスで作られた勾玉、管玉などのビーズが見つかることがあります。これらの玉類は、原材料の産出地の制約などから、限られた地域で作られていることが多いため、出土した玉類を観察して孔のあけ方などの製作技法を調べたり、素材を化学分析したりすることで、いつ、どこで作られたものかを絞り込むことができます。このような玉類の分布やお墓での使われ方を調べることで、弥生・古墳時代における物財の流通・消費の実態を明らかにし、その背後にある社会関係に迫ろうというのが、私の研究です。

2017年度に提出した博士論文では、日本列島各地で定型化した前方後円墳が築かれるようになる古墳時代の開始とともに、玉類の流通ネットワークも、近畿中枢の政体

との関係を重視したものに再編成されていくことを明らかにしました。今後は、主に古墳時代後半期の資料を対象として、日本列島が首長制社会から古代国家へと移行していく時期の玉類の流通・消費の動態について検討を進めていく予定です。また、総合研究博物館には、中山平次郎先生関係資料や、玉泉館資料などに玉類が収蔵されていますので、これらの資料も研究に活かしていきたいと考えています。

私の出身は九州大学大学院比較社会文化学府ですが、単位取得退学後、博物館に着任するまでの4年間は、九州大学附属図書館付設教材開発センターで映像教材の開発に携わってきました。九州大学で行われている研究を、より広く、より分かりやすく伝えることを意識してきましたので、この経験を活かして博物館業務に取り組んでいきたいと思っています。博物館の魅力は、なんといっても自分の目で実物資料を見ることができるといことです。観察から得られた「気付き」がもたらす小さな感動、わくわく感を大切にしたいです。

COLUMN②

福岡ミュージアムウィーク 2018

伊藤 泰弘 開示研究系・助教

期間●2018年5月12日(土)～20日(日)



▲オリジナル動物骨標本、制作中!

福岡ミュージアムウィーク 2018 に参加しました。期間中のイベントは盛り沢山。まずは、常設展示室で「ありがとう箱崎キャンパス」のシリーズ展示「防塁再発見―慧眼の士・中山平次郎先生の足跡―」を開催。第三分館では、普段見ることのできない動物骨格標本室と高

壮吉動物標本室を一般公開しました。また、開学記念行事として本館3階列品室や壁画のある4階会議室を公開しました。さらに、「地質の日」記念企画として前田晴良教授の特別講義「化石化のメカニズムを探る」を開講。歴史的木製什器の活用に関するシンポジウム

「Furniture for Future」の連動展示も行いました。

今年はキャンパス移転のため箱崎九大前駅に近い松原門が閉鎖されるなど不便な点もございましたが、多くの方にお越しいただき、当館の活動を知っていただけたのではないかと思います。



研究紹介

イギリス調査旅行記Ⅲ

— キリスト教石彫探訪 —

岩永 省三 一次資料研究系・教授 専門：考古学

一昨年・昨年に続き、イギリスに調査に来た。今回の調査地マン島は、アイリッシュ海に浮かび、面積約570 km²と淡路島ほどの小さな島だが、ブリテン諸島の中央に位置しヨーロッパ大陸にも近接する環境ゆえ、長く複雑な歴史を刻んできた。

前4000年頃に始まる新石器時代は、農耕の開始、磨製石器や土器の登場、祭祀の場や墓として機能した巨大モニュメントの築造に特徴づけられる。その形状には数種類あるが、最も注目されるのが本調査で見学した Cashtal yn Ard や King Orry's Grave に代表される、鎌状の平面形を有する墳墓である。左右の突出部に間に U 字状の前庭部があり、その中央に開く玄門が複数の室に仕切られた玄室に繋がる。この構造はスコットランド南部およびアイルランド北部にも見られ、両地域とマン島との間に交流があった可能性を示す。

青銅器時代を経て、前500年頃から鉄器時代が始まると、島内の重要な場所に岩が築かれるようになる。50年頃には近接するブリテン島がローマ帝国の支配下に入るが、ローマ期のガラス製品やブローチなどの出土により、マン島もその影響を間接的に受けるようになったことが判る。

6世紀から11世紀までは初期中世と呼ばれる。当該期の第一の特徴はキリスト教の浸透であり、それを根拠づける資料が、本調査で見学した各地の教会に所蔵される石彫（板碑）である。初期の石彫には単純な十字文と共に文字を刻んだパターンが多く、ブリテン島からのローマ系教会の伝播（ラテン文字）と、アイルランドからのケルト系教会の伝播（オガム文字）による重層的なキリスト教浸透の在り方が伺える。第二の特徴は9世紀以降のヴァイキングの入植である。初期の入植者については、Balladoole や Jurby などで見えられた船葬墓から、後期の入植者

については、ポーレ様式やイエリング様式といった北欧地域に由来する文様様式を持つ石彫により明らかにされつつある。マン島と同様にヴァイキングの支配拠点となったブリテン島



①

2018/08/07

ヨークから出土した石彫にも、同様式に分類される文様が刻まれるが、細部に違いが認められ、その系譜を明らかにする必要がある。

その後11世紀末にはノルウェー系王国が成立したが、13世紀後半以降イングランド・スコットランド間で支配権が移動を繰り返し、15世紀からイングランド貴族スタンリー家の支配下に入り、1765年以降はイギリス王室属領となって現在に至る。

現在は自治権を持ち、島内至る所に見られる独特な三脚巴（Manx Triskelion）が象徴である。

このように周辺地域の影響の中で歴史を刻んできたマン島の概要は、マンクス博物館で学べる。首都ダグラスにある総合



③

2018/08/03

博物館で、地質・自然史・美術・考古・歴史・民俗・軍事などの諸分野から構成された、非常に充実した内容を有する。マン島を発祥とする尻尾が無いかとても短いマンクス・キャットの剥製も本博物館に展示されている。



②

2018/08/04

① ヴァイキングの船葬墓 ② 新石器時代の巨石墓 ③ 教会の石彫群



授業紹介

昆虫学入門

— 多様性を探る —

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

近年、インターネットを通じて、誰もが高等教育を受けられる試みが多く行われている。とくに、JMOOC 公認サービス OpenLearning, Japan は、大学現場の講師陣によるオンライン授業を無料で提供していて、九州大学も毎年参画している。2018 年は私が表題の講義を担当した。打ち合わせから撮影、編集までを本学の教材開発センターが行い、7月23日にめでたく配信となった。

5-7分の講義を3週間にわたって配信し、8月20日の終了までに受講生は1604名に達したそうだ。

私は講義内容を考え、スライドを作っただけで、教材開発センターの皆さんが苦勞して制作から配信中の質問対応まで行ってくださった。大学がこのような社会貢献をするのは素晴らしいことで、私も今回はじめて関わることができて、たいへん光栄であった。



▲カメラスタンバイ中!

COLUMN③

【放送大学面接授業】

大学博物館への招待 3

担当 ● 岩永 省三・前田 晴良・中西 哲也・三島 美佐子



▲岩永教授による会議室壁画の解説

2018年4月14日(土)・15日(日)に、放送大学の面接授業「大学博物館への招待3」が開講されました。総合研究博物館では、2016年から放送大学の授業に協力しており、今回で3回目の開講です。内容は「大学博物館の意義と機能(岩永教授)」、「九大の歴史遺産とその保全(岩永教授)」、「鉾山大国ニッポンの記憶(中西准教授)」、「化石化のメカニズムを探る(前田教授)」、

「アンモナイトの遺骸は浮か沈むか(前田教授)」、「九州大学の植物標本と研究史(三島准教授)」、「大学博物館における特色ある資料とその活用(三島准教授)」です。合計8コマの集中授業ですが、バックヤードツアーや資料観察の時間を多く取り、受講生の方々が目を輝かせて解説に聞き入る姿も見受けられました。

(文章: 谷澤)





特別寄稿

土井ヶ浜遺跡の弥生時代人骨

—九州大学の古人骨資料紹介—

高椋 浩史 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 学芸員 専門:人類学

九州大学総合研究博物館には3000体を超える古人骨資料が所蔵されていますが、その中でも土井ヶ浜遺跡の弥生時代人骨資料は貴重な資料と言えます。いかなる研究分野においても、その研究の歴史の中で論争解決のための大きなターニングポイントとなった発見があるはずです。遺跡から出土する古人骨を用いて、私たち日本人のルーツを明らかにする人類学研究では、土井ヶ浜遺跡の弥生時代人骨の発見がまさに研究史上の大きなターニングポイントでした。

土井ヶ浜遺跡は現在の山口県下関市豊北町に所在し、響灘に面する土井ヶ浜の砂丘上に営まれた弥生時代の埋葬跡です。土井ヶ浜での人骨の発見は古く、戦前の段階で古い時代の人骨が土井ヶ浜の地で発見されたという情報は知られていましたが、戦争による混乱でその情報は

研究者の間で共有されませんでした。1953年、水車を建設しようとしたところ、地中から人骨が発見されました。その情報は、当時九州大学医学部解剖学教室にいた金関丈生先生(写真①)にもたらされます。

金関先生は遺跡の重要性を鑑み、解剖学教室の教職員や考古学の研究者とともに延べ5回にわたる発掘調査をおこないました(写真④)(写真⑤)。発掘調査の結果、約200体以上の弥生時代人骨が発掘され、金関先生はそれらの資料を用いて日本人の形成史についての重要な学説である「渡来・混血説」を提唱します。

日本人の形成史をめぐる論争は明治時代以降に本格化しました。遺跡から出土する人骨も徐々に増えていき、縄文時代の貝塚や古墳から人骨が発見されていきます。それらを比較すると、縄文時代の人々は現在の日本人とは

異なる形質を持つ一方で、古墳時代の人々は現代人により類似することがわかりました。この変化の要因は何か？

問題解決の鍵となるのは、縄文時代と古墳時代の間の時代、つまり弥生時代の資料でした。しかし、当時は弥生時代の古人骨資料がほとんど発見されていませんでした。その状況を変えたのが、土井ヶ浜遺跡の発見です。金関先生が土井ヶ浜遺跡から出土した弥生時代人骨を調査した結果、縄文時代の人々とは全く異なり、その後の古墳時代や現代人の形質と類似していることがわかりました。このことから金関先生は、縄文時代の終りごろに大陸から渡来人がやってきて、在来の人々と混血することによって、弥生時代の人々やその後の日本人が形作られるという「渡来・混血説」を提唱しました(写真③)。この説に関して、当初は多くの人類学者から賛同を得られませんでした。その後の研究の進展により、現在では広く支持されています。



初は多くの人類学者から賛同を得られませんでした。その後の研究の進展により、現在では広く支持されています。

金関先生の発掘調査以降、土井ヶ浜遺跡は国指定史跡となり、平成5年には土井ヶ浜遺跡を紹介する施設として、私が務めている土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムが開館します。土井ヶ浜遺跡の発掘調査も続き、九州大学の多くの先生方が土井ヶ浜遺跡に関わってこられました。金関先生の後に九州大学医学部解剖学教室第2講座の教授となった永井昌文先生は、土井ヶ浜遺跡で出土した貝輪の原材料が南西諸島でしか採ることができない大型の巻貝であることを解明されました(写真②)。また、九州大学大学院比較社会文化研究院の中橋孝博名誉教授、故田中良之教授も土井ヶ浜遺跡の発掘調査に従事され、今日の九州大学総合研究博物館所蔵の土井ヶ浜遺跡出土の弥生時代人骨資料がさらに充実しました(写真⑥)。こうした先生方のご尽力により、土井ヶ浜遺跡の弥生時代人骨資料は、日本のみならず世界中の研究者が調査に訪れ、その成果は人類学研究に大きく貢献しています。



- ① 金関文生先生
- ② 貝輪模造品の製作に取り組み永井昌文先生
- ③ 縄文時代人骨(左:山鹿貝塚)と弥生時代人骨(右:土井ヶ浜遺跡)
- ④ 土井ヶ浜遺跡第4次調査
- ⑤ 土井ヶ浜遺跡第3次調査集合写真
- ⑥ 九州大学総合研究博物館での土井ヶ浜遺跡出土人骨の収蔵状況

《臨時休館のお知らせ》

箱崎キャンパス跡地地区の工事および館内整備作業のため、下記の期間は博物館を休館いたします。

期間 ● 2018年10月1日(月)～11月30日(金)(予定)

来館者の安全を考慮いたしました結果、やむなく休館とさせていただきます。上記期間中は、部外者の方の、旧工学部本館への立ち入りはご遠慮ください。再開館に際しては『本館丸ごと博物館』展(仮)を予定しています。

箱崎キャンパス跡地保存地区におきましても、みなさんと学び、楽しみ、集える展示、イベントを企画していきたいと考えております。今後とも本館へのご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

《催事予告》



「ありがとう箱崎キャンパス」シリーズ展示

九州大学の鉱物鉱石 ～我が国の鉱山開発との関わり～

期間 ● 2018年12月1日(土)～(予定) / 会場 ● 旧工学部本館3階総合研究博物館常設展示室

本学創設時以来の資料の一つである鉱物鉱石標本コレクション。その収集背景や、関連する採鉱学関連資料を紹介します。



展示・講演会関係の活動状況

Activities of Exhibitions & Conferences

公開展示

- 「ありがとう箱崎キャンパス
—学術遺産と学者たち— シリーズ1
戦前の福岡における博物館研究の興隆と九州大学」
期間○平成30年3月22日(木)～5月6日(日)
場所○箱崎キャンパス旧工学部本館3階常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館
- 「ありがとう箱崎キャンパス
—学術遺産と学者たち— シリーズ2
防壁再発見—慧眼の士—中山平次郎先生の足跡—」
期間○平成30年5月12日(土)～7月27日(金)
場所○箱崎キャンパス旧工学部本館3階常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館・九州大学埋蔵文化財調査室
- 「ありがとう箱崎キャンパス
—学術遺産と学者たち— 伊都につながる百年」
期間○平成30年9月25日(火)～平成31年1月18日(金)
場所○伊都キャンパス椎木講堂
主催○九州大学総合研究博物館・九州大学大学文書館
協力○九州大学総務部同窓生・基金課

特別企画

- 「Furniture for Future」
期間○平成30年5月12日(土)～5月27日(日)
場所○箱崎キャンパス旧工学部本館3階341
主催○「活用文化財としての歴史的木製什器の在野保存」
プロジェクト(2017年度トヨタ財団研究助成プログラム
D17-R-0714)・九州大学総合研究博物館
共催○九州大学文書館
協力○九州大学大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻、
芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科真保
研究室、大川市役所インテリア課おかわセーブル係
後援○大川市、大学博物館等協議会・日本ミュージアム・
マネージメント学会、家具道具室内史学会
- Museum Project for Chinese in Japan
期間○平成30年6月9日(土)
場所○総合研究博物館常設展示室、第三分館、工学部列品室、
旧工学部本館3階341、会議室
- ハコスイ出張カフェ
期間○平成30年7月23日(月)
会場○箱崎キャンパス旧工学部本館3階341
主催○九州大学総合研究博物館
協力○箱崎水族館喫茶室

社会連携事業

- 志摩歴史資料館夏季企画展
「昆虫にズームイン!! 顕微鏡レンズで見る体表構造」
期間○平成30年7月10日(火)～9月2日(日)
場所○糸島市志摩歴史資料館
主催○志摩歴史資料館・九州大学総合研究博物館

シンポジウム

- 「Furniture for Future 一使いながら守る・つなげる
新たな仕組みとしかけの提案にむけて—」
期間○平成30年5月19日(土)
場所○箱崎キャンパス旧工学部本館1階大講義室
主催○「活用文化財としての歴史的木製什器の在野保存」
プロジェクト(2017年度トヨタ財団研究助成プログラム
D17-R-0714)・九州大学総合研究博物館
共催○九州大学文書館
協力○九州大学大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻、
芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科真保
研究室、大川市役所インテリア課おかわセーブル係
後援○大川市、大学博物館等協議会・日本ミュージアム・
マネージメント学会、家具道具室内史学会

テレビ・ラジオ出演

- NHK 総合
「歴史秘話ヒストリア 家康大航海時代に出会う!
イギリスの侍 安針の大冒険」
(井澤英二協力研究員 [九州大学名誉教授])
平成30年4月18日(水)

- NHK ラジオ第一放送とNHK ワールド・ラジオ日本
「NHK ラジオ夏休み子ども科学電話相談」
(丸山宗利准教授)
平成30年7月25日(水)、26日(木)、27日(金)、8月29日(水)、
30日(木)
- ラプエフェム国際放送株式会社「月下虫音」
(丸山宗利准教授)
平成30年7月5日(木)21:30～22:30

講座・講演会等

- MOOC「昆虫学入門—多様性を探る—
Exploring Insect Biodiversity」
Introduction to Entomology: Exploring Insect
Biodiversity
平成30年7月23日(月)～8月20日(月)
制作○九州大学教材開発センター
講師○丸山宗利准教授(九州大学 総合研究博物館)
運営・提供○MOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)・
株式会社ネットラーニング
- 朝日カルチャーセンター湘南教室「魅惑の昆虫」
(丸山宗利准教授)
平成30年7月25日(水)
- 親子で学ぶ夏限定の研究室
—LEXUS AMAZING SUMMER LABO—
「実は昆虫の宝庫!? 東京23区にいる昆虫を巡る冒険」
(丸山宗利准教授)
トヨタ東京販売ホールディングス株式会社
平成30年8月25日(土)
- 夏休み公開イベント「NHK 福岡夏祭り—花火! お笑い!
昆虫! ドック〜ン—」
「昆虫博士にぞく! 夏休み子ども相談室」
(丸山宗利准教授)
平成30年8月6日(月)
- 九州大学総合研究博物館
「地質の日記念 プロフェッサー前田の化石講座」
(前田晴良教授)
平成30年5月12日(土)

出張展示

- 福岡県の蝶9
期間○平成28年3月17日(金)～継続中
場所○糸島市図書館二文館

サテライト展示

- 「笹丘小ミュージアム」
地球と宇宙からの贈り物(化石)
期間○平成30年1月9日(火)～継続中
場所○福岡市立笹丘小学校

協力

- 特別展「昆虫」
期間○平成30年7月13日(金)～10月8日(月)
場所○国立科学博物館
主催○国立科学博物館、読売新聞社、フジテレビジョン
協力○九州大学総合研究博物館、東京大学総合研究博物館、
NPO 法人バイオミメクス推進協議会
- 「スケスケ展—スケと見える仕組みの世界—」
期間○平成30年7月14日(土)～9月24日(月)
会場○福岡市科学館
主催○福岡市科学館、西日本新聞社、RKB 毎日放送
学術協力○九州大学総合研究博物館
協力○青島文化教材社、河合楽器製作所、キリンビバレッジ
パリュウベンダー、久留米工業大学、名古屋科学館
企画・制作○空気株式会社
- 「クラシックセッション with 九大フィル」
期間○平成30年7月23日(月)
会場○箱崎キャンパス旧工学部本館3階341
主催○九大フィルハーモニー・オーケストラ、箱崎水族館喫茶室

- 「大昆虫展 in 東京スカイツリータウン」
期間○平成30年7月14日(土)～9月2日(日)
場所○東京スカイツリータウン 東京ソラマチ5階
「スペース634」
主催○「大昆虫展実行委員会」

- 「コトバのワークショップ「アルバム辞典を作ろう! in
九大」」
期間○平成30年7月14日(土)
会場○九州大学箱崎キャンパス旧工学部本館総合研究
博物館
主催○結 creation
協力○九州大学総合研究博物館

ミュージアムカフェ

- 「SPレコードに聴く戦前の演劇風景(その1) 歌舞伎・
新派・新国劇・曾我廼家劇」
期間○平成30年5月6日(日)
会場○九州大学箱崎キャンパス旧工学部本館4階会議室
主催○箱崎SPレコード研究会・九州大学総合研究博物館
協力○九州大学人文科学研究院・九州大学芸術工学研究院

博物館施設一般公開

- 開学記念事業に伴う一般公開
期間○平成30年5月12日(土)
場所○総合研究博物館第三分館、工学部列品室、
常設展示室、会議室
- 福岡ミュージアムウィーク2017 参加に伴う施設公開
期間○平成30年5月12日(土)～20日(日)
場所○総合研究博物館常設展示室
期間○平成30年5月12日(土)、13日(日)、19日(土)、
20日(日)
場所○総合研究博物館第三分館
- オープンキャンパスに伴う施設公開
期間○平成30年8月5日(土)、6日(日)
場所○総合研究博物館常設展示室、第三分館

人事往来

Personal Changes

着任・退職

平成30年4月1日付けて、
事務補佐員の山本恵奈が
転任しました。

平成30年5月1日付けて、
谷澤亜里が開示研究系・助教として
着任しました。
(本誌 p.7 参照)

専門研究員(新規)

佐野 弘好 平成30年4月1日～
白土 悟 平成30年4月1日～
主税 和賀子 平成30年4月1日～
波江野 洋 平成30年4月1日～
松井 久美子 平成30年4月1日～

その他の活動状況

Others

運営委員会

平成30年3月29日
平成30年4月24日(書面)
平成30年5月29日
平成30年8月10日(書面)

団体見学

平成30年5月19日(土) 木製什器シンポジウム参加者 約60名
平成30年5月23日(水) 九州市民大学特別講座 90名
平成30年6月6日(水) 九州市民大学特別講座 90名